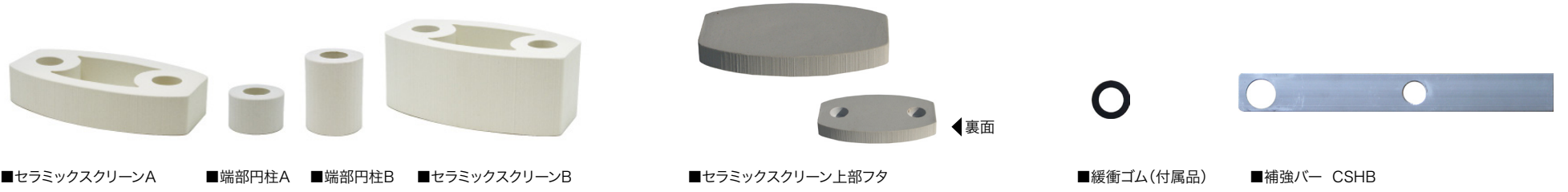


セラミックスクリーン 組立概要

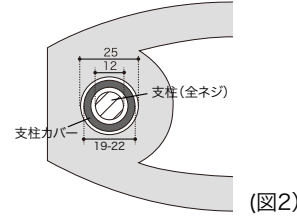
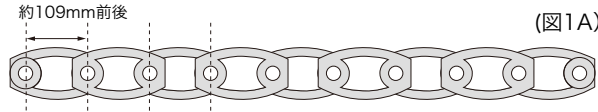
(現場の状況に応じ、十分ご検討ご判断下さい。施工の補償をするものではありません。)

***セラミックスクリーンは必ず補強バーやフラットバーなどで強度保持ができるものへの連結が不可欠です。強度保持ができるものへの連結がない独立、単独での施工は大きな揺れにつながります。この製品で構成される面はたわみや動きが大きいため支柱のみの組立による自立はできませんのでご了承ください。**
この組立概要は強度保持をフレームとする場合 (②-A) とコンクリートブロックとする場合 (②-B) の説明になります。その他の施工に関しましてはご相談ください。

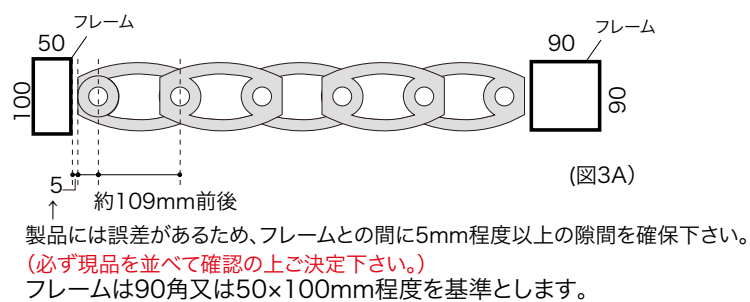
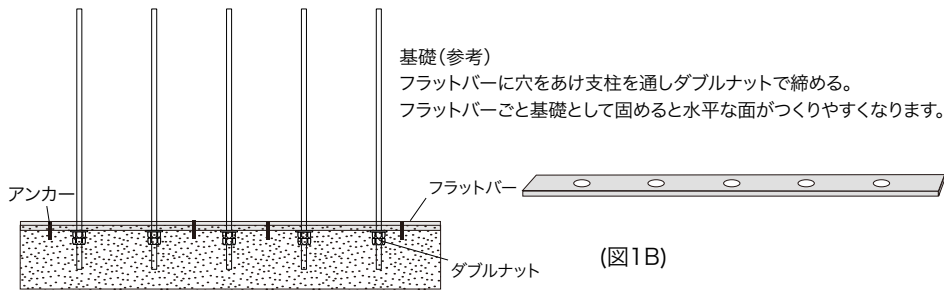


1 支柱と強度を保持するフレーム、又はコンクリートブロック等を設置する

① 支柱(全ネジ寸切M12)を立てる



製品の穴芯ピッチで支柱を立てる。(製品には左右2ヶ所の穴があります)
 基本的なピッチは約109mm前後。やきもののため製品誤差があります。**必ず現品を並べて確認の上ご決定下さい。**(図1A参照)
 支柱は垂直に正しく立てて下さい。垂直に立っていないと製品を積み上げていく際、表裏の面精度が出ない原因になります。
 フラットバーに穴をあけ支柱をナットで固定しフラットバーごと基礎として固める。(図1B参照)

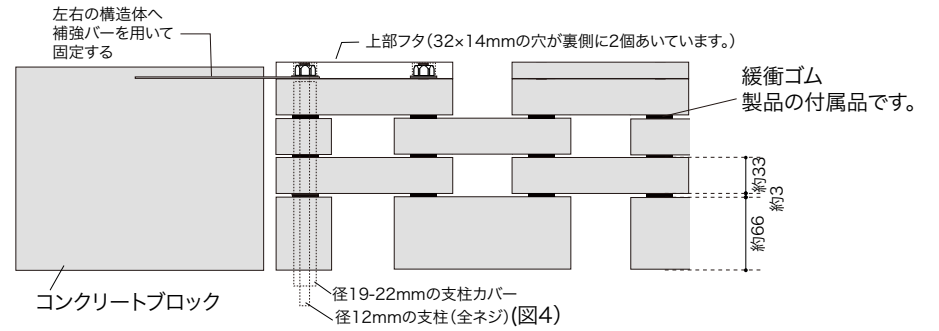


(図3B) このパースはRIKCAD21で作成

支柱を設置後支柱カバーを設置して下さい。(図2参照)

現場毎に手配頂く部材 参考

- (支柱) 全ネジ(寸切M12) ナット 座金
- (支柱カバー) ステンレス丸パイプ、アルミ丸パイプ又は鉄丸パイプ(鉄丸パイプは 錆止め済みのもの) 外径 約19mmから22mmまでのものをご使用下さい。
***やきものため製品寸法誤差があります。そのため、支柱カバー(丸パイプ)の外径が22mmを超えると入らなくなる可能性がありますのでご注意ください。**
 参考支柱カバー グローベン 丸竹補強用パイプ 丸26用L4000 A50LR022 (外径22mm 内径19mm)
***施工に必要な部材は錆びにくいものをご使用をおすすめします。**
***支柱カバーは一番上にくる製品の高さよりも少し短く設定して下さい。支柱カバーが製品より長いと上部をナットで締付けできないためです。**



②-A 強度保持をフレームとする場合

左右にフレームを立てる。(図3A及び図3B参照)
 フレームは90角又は50×100mm程度を基準とします。
 横方向に長く連続する場合は1500mm程度ごとに中間フレームを設定すると製品がしっかりします。
 製品積み上げ後、左右のフレームを上部でつなぎ、強度を確保します。(図8参照)

②-B 強度保持をコンクリートブロックとする場合

左右にコンクリートブロックを積み上げる
 補強バー(KZ2-CSHB)を使い左右のコンクリートブロックと連結することで強度を確保します。
 横方向に長く連続する場合は1500mm程度ごとに中間にもコンクリートブロックを設定すると製品がしっかりします。
 補強バーを使用する部分だけは、高さ方向をそろえるため、付属の緩衝ゴムを使用しません。
 補強バーの取付位置は最上部にくる製品の下の側及び、必要に応じて中間部にも設置します。
 (図4、写真1、2参照)



2 支柱に緩衝ゴム・製品の順で通し、組み上げる。

端部には円柱型を用います。
 緩衝ゴム(材質EPDM(エチレン・プロピレン・ゴム))は、製品の付属品として同梱してあります。
 組み上げに際しては、水平、垂直、表裏面を調整しながら進めて下さい。
 高さ方向の中間部で横方向にフラットバーを設置することにより
 強度的にも安定し、製品寸法の誤差等による水平レベルのくいを調整できます。(図5参照)
 また、フラットバーを入れた厚み分だけ見え方も異なります。

3 上部を固定し強度を確保します。

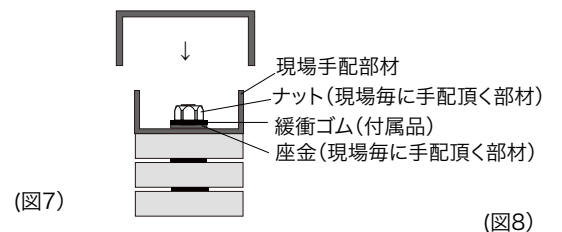
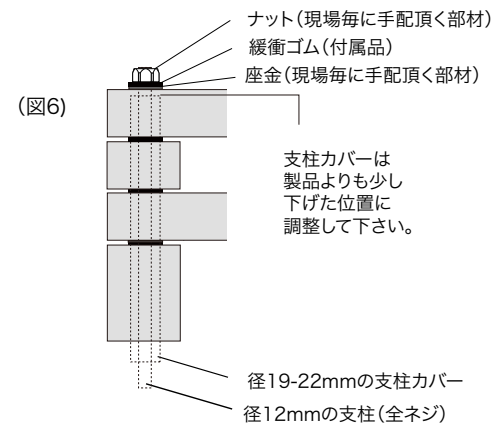
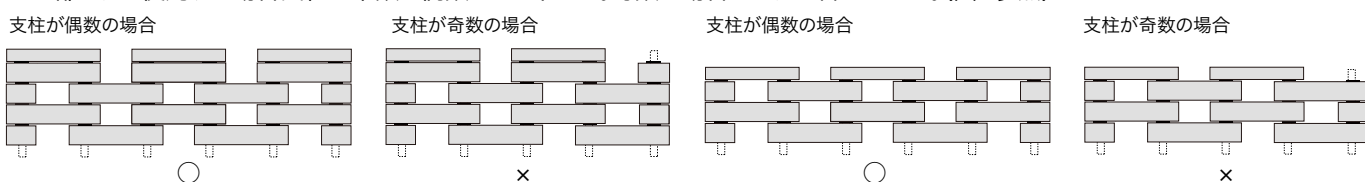
支柱(全ネジ)に座金、ナットを使い上部で固定します。(図6参照) **ナットで締める際には水平レベルにご注意下さい。**
やきものため寸法誤差が生じることがございます。必ず水平、垂直、表裏面を調整しながら締めて下さい。
 緩衝ゴムがあるためナットはかなり締まりますが、全体の面が動きにくくなった程度でレベルに合わせて止めて下さい。

4 上部の納まり

A 上部フタの場合

フタの裏側には2カ所凹みがあります。その凹みにナットを納め、フタのレベル、傾きを調整しながらボンド接着して下さい。
 湿った状態ではボンドが付きにくくなることがございますのでご注意ください。(養生時間を確保下さい。)
 フタは2カ所固定しているだけのため、若干動きます。(図4参照)

***上部フタを使用する場合支柱の本数を偶数にして下さい。奇数の場合はフタが合いません。(図7参照)**



B フレームの場合

支柱を上部フレームに固定します。(図8参照) フレームの納め方、デザイン処理は現場毎にご判断下さい。

注意事項

- *製品には寸法差がありますので、水平・垂直・前後の面を調整しながらすすめてください。
- *セラミックスクリーンだけの自立は、たわみや揺れが大きいためできません。左右上部や中間部での構造体への固定が必要です。
- *水平方向にフラットバーを設置すると、製品寸法差に役立ち、強度アップにもつながります。
- *高さは、1200mm程度までを目安としてください。高さや幅が1200mmを超える場合はフラットバーや背面での補強を十分にご検討ください。
- *セラミックスクリーンはコンクリートブロックを積んだ丈夫さとは異なり基本的に動かないという構造ではありません。柔軟に動けるような構造としています。
- *子供が上ったりする場所は安全のため避けて下さい。